

# 1 教科に関する意識

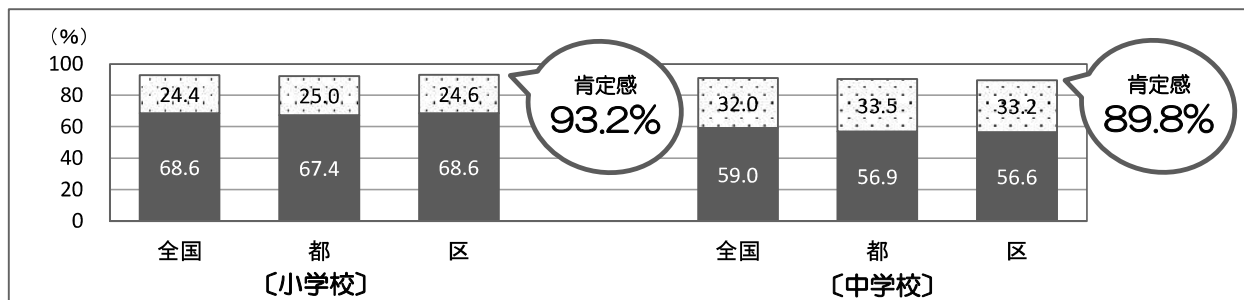
※肯定的な回答(例:当てはまる+どちらかといえば、当てはまる)をした児童・生徒の割合を示す。設問末尾の[ ]内の数字は、質問紙番号。

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる

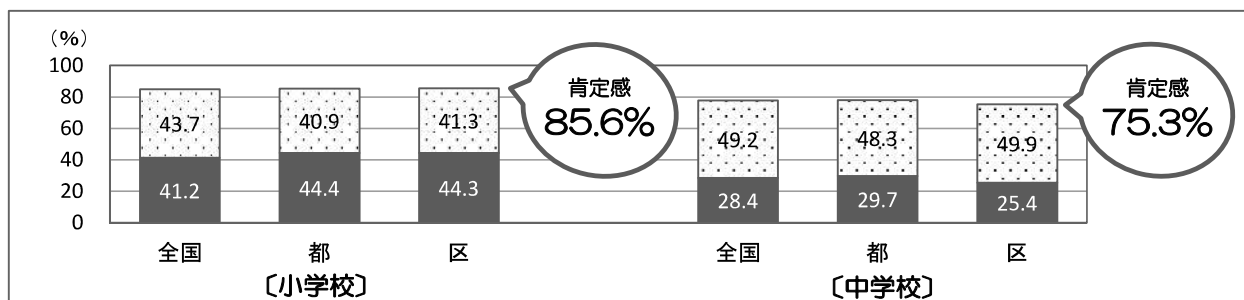
## 国語に対する意識

- 「国語の授業の内容はよく分かる」の質問における肯定感は、中学校で7割台にとどまっている。また、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」の質問における肯定感は、小・中学校ともに7割台にとどまっている。教師が一方的に知識を伝達するのではなく、児童・生徒が中心となって授業が展開される主体的・対話的な学習活動の中で、児童・生徒が自ら知識を獲得できるようにするための授業改善が必要である。

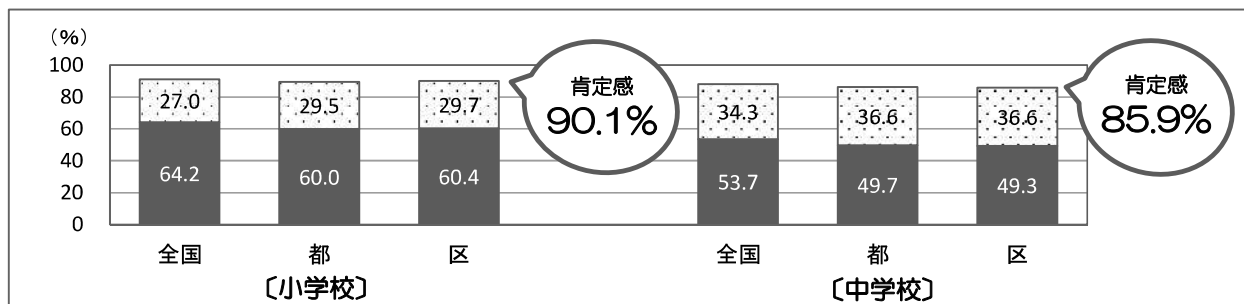
### 1 国語の勉強は大切だ [小 38/中 41]



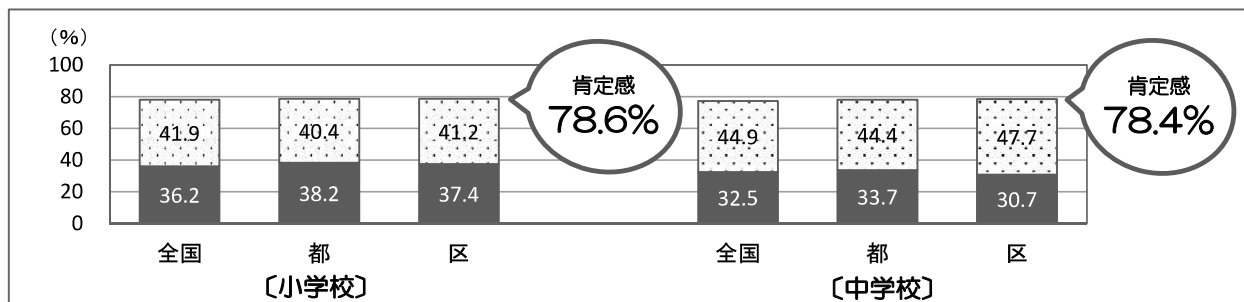
### 2 国語の授業の内容はよく分かる [小 39/中 42]



### 3 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ [小 40/中 43]



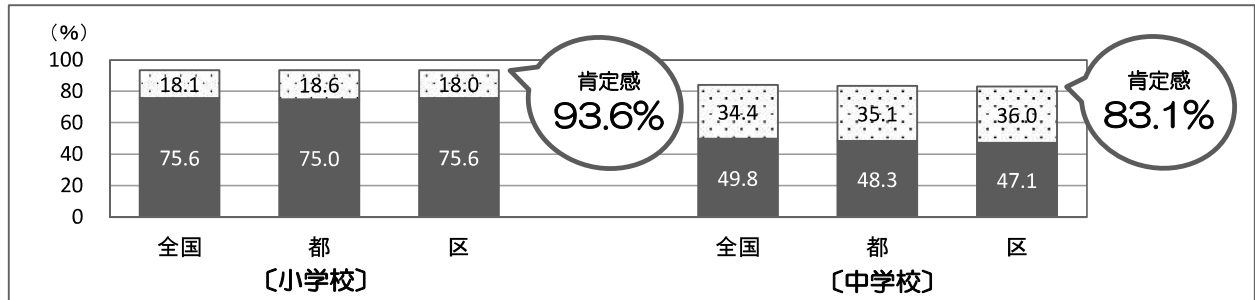
### 4 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている [小 42/中 45]



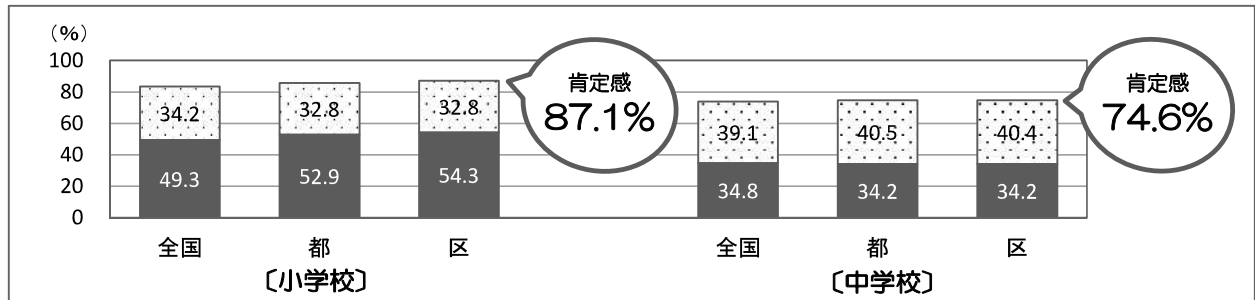
算数・数学に対する意識

- 「算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」の質問における肯定感は、小・中学校ともに全国平均よりも低く、中学校では72.3%となっている。昨年度は68.0%であったため、4.3ポイントの増加ではあるものの、依然として課題である。今後も引き続き、日常生活と深く関連付けた学習活動を設定していくことが求められる。

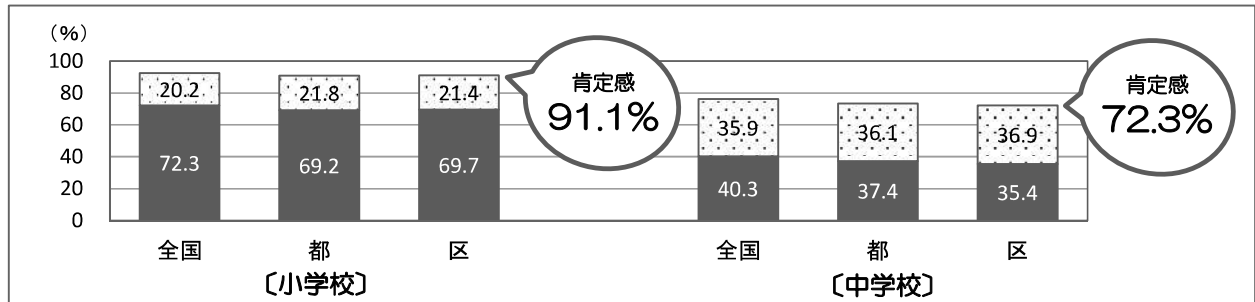
5 算数(数学)の勉強は大切だ [小 47/中 50]



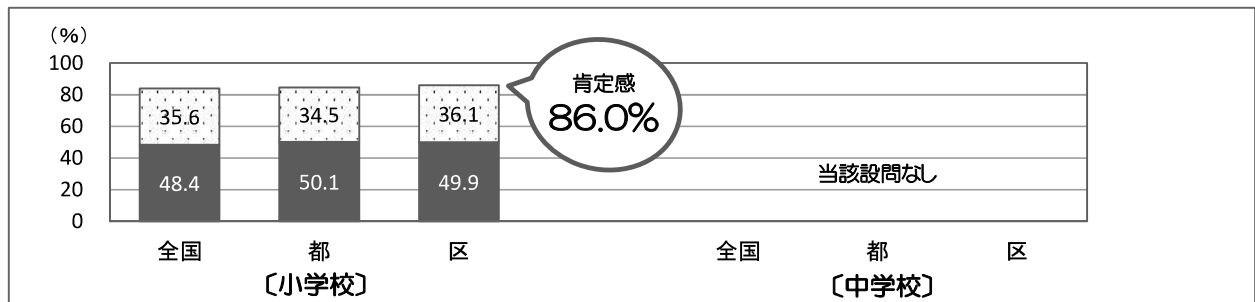
6 算数(数学)の授業の内容はよく分かる [小 48/中 51]



7 算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ [小 49/中 52]



8 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている [小 54/中 当該設問なし]



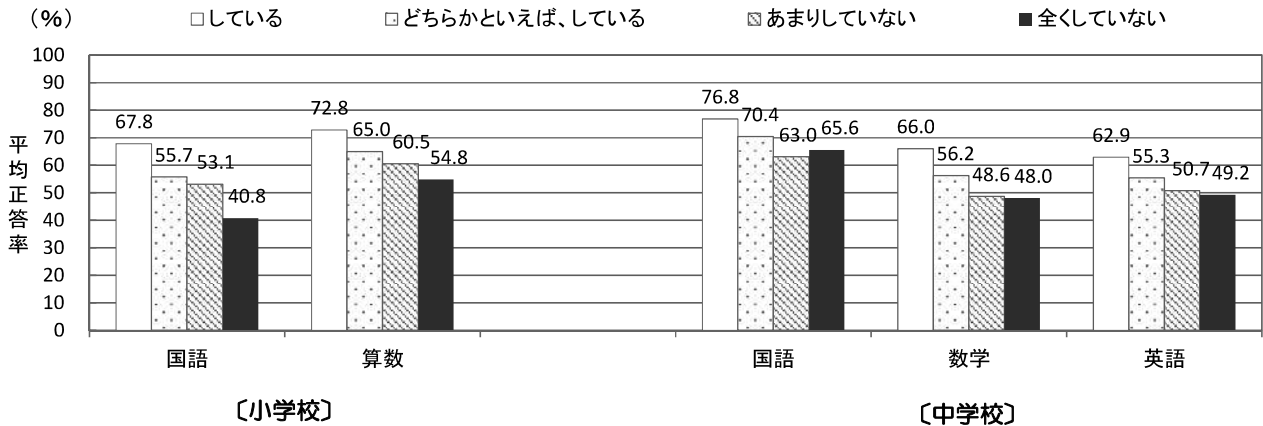
## 2 生活の状況

### 1 朝食を毎日食べている【小 1/中 1】

(%)

	している	どちらかといえば、 している	あまりしていない	全くしていない	無回答
小学校	89.1(87.3)	7.4( 8.3)	2.9(3.3)	0.6(1.0)	0.0(0.0)
中学校	83.4(80.5)	9.8(11.7)	5.1(5.2)	1.8(2.6)	0.0(0.0)

※( )内の数字は、平成30年度の結果

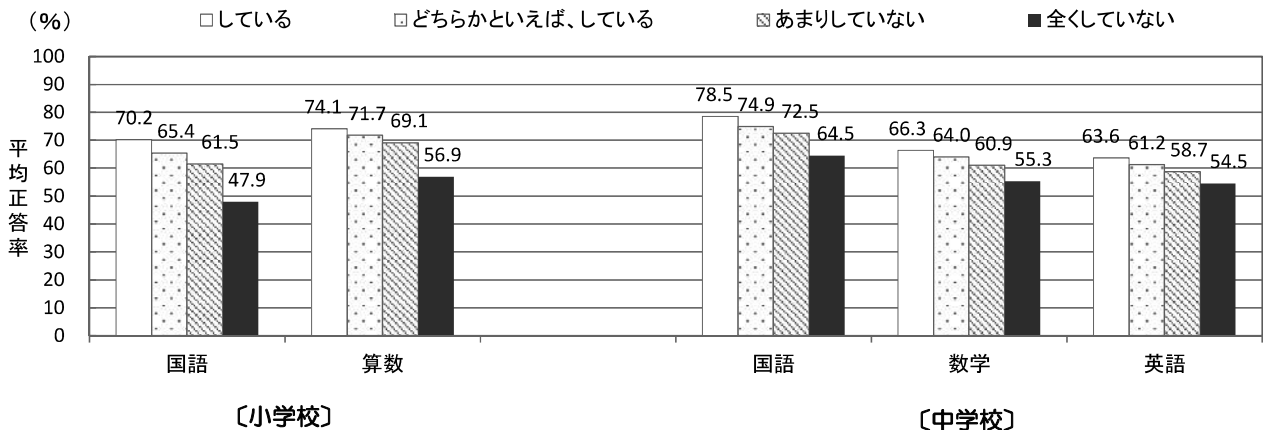


### 2 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする【小 4/中 4】

(%)

	している	どちらかといえば、 している	あまりしていない	全くしていない	無回答
小学校	50.7(54.0)	27.8(28.5)	16.3(13.6)	5.0(3.8)	0.0(0.0)
中学校	43.8(44.4)	30.9(29.5)	18.1(18.8)	7.1(6.6)	0.2(0.7)

※( )内の数字は、平成30年度の結果



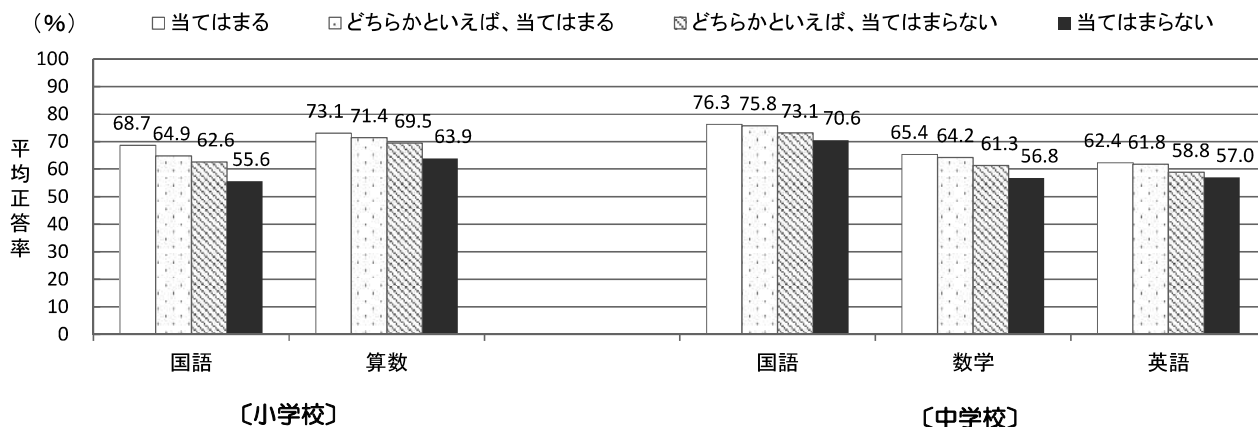
- 「朝食を毎日食べている」の設問について、「している」と回答した割合は、昨年度に比べ、小学校で1.8ポイント、中学校で2.9ポイント増加した。小・中学校ともに、「どちらかといえば、している」の値が微減しているものの、全体的に、朝食を食べる児童・生徒は増加傾向を示している。朝食摂取と学力には関連が見られることから、今後も家庭科における指導や生活指導等を通して、家庭で朝食をきちんととらせるよう促していくことが大切である。
- 「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする」の設問について、「している」と回答した割合は、昨年度に比べ、小学校で3.3ポイント、中学校で0.6ポイント減少した。また、「全くしていない」と回答した割合は、小学校で1.2ポイント、中学校で0.5ポイント増加した。家の人との会話は学力との間に相関関係が見られる。特に小学校段階では、「している」と「全くしていない」で平均正答率に20ポイント前後の差があることから、今後も家庭学習における関わりなどを通して、家の人との会話を促していくことが大切である。

### 3 学校に行くのは楽しいと思う[小 12/中 12]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	53.8	31.5	9.7	4.9	0.0
中学校	41.8	38.0	13.2	6.9	0.1

※平成 30 年度は当該設問なし

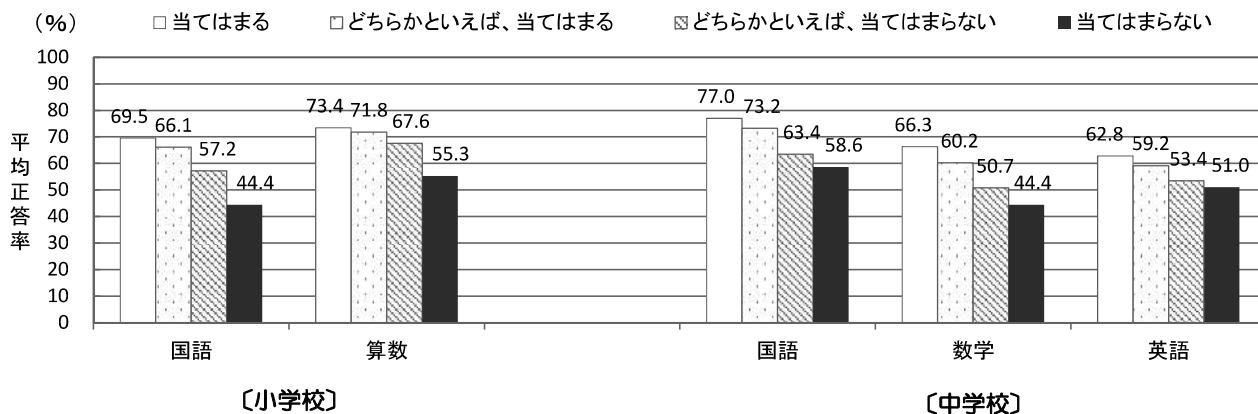


### 4 学校のきまり(規則)を守っている[小 13/中 13]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	39.9 (37.9)	49.6 (49.4)	8.8 (10.6)	1.5 (2.0)	0.0 (0.0)
中学校	65.9 (60.3)	30.2 (34.5)	3.2 ( 4.1)	0.7 (0.9)	0.1 (0.1)

※( )内の数字は、平成 30 年度の結果



- 「学校に行くのは楽しいと思う」の設問について、肯定的な回答をした児童・生徒の平均正答率は、肯定的でない回答をした児童・生徒の平均正答率より高くなっている。児童・生徒にとって楽しい学校生活を送ることが、学習意欲や学力の向上につながっていると考えられる。そのため、授業改善に加えて、児童・生徒の学校生活を充実させる手だてをを考えていくことも重要な視点である。
- 「学校のきまり(規則)を守っている」の設問について、「当てはまる」と回答した割合は、昨年度に比べ、小学校で2.0ポイント、中学校で5.6ポイント増加した。肯定的な回答をした児童・生徒の平均正答率は、肯定的でない回答をした児童・生徒の平均正答率より高くなっている。特に、「当てはまる」と回答した児童・生徒と「当てはまらない」と回答した児童・生徒の平均正答率は、小学校国語で25.1ポイント、中学校数学で21.9ポイントと大きな差が見られる。児童・生徒一人一人が基本的な生活習慣や学習習慣を確立できるよう指導していくことが重要である。

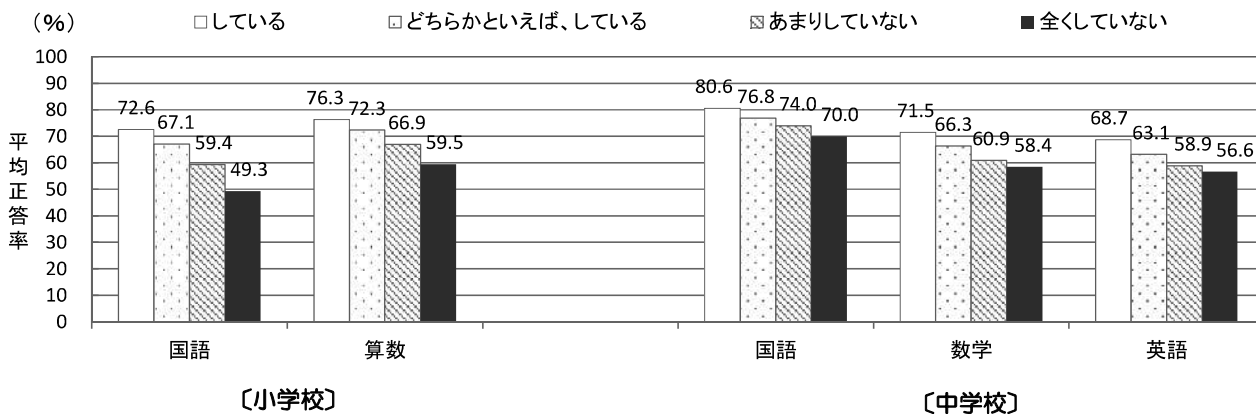
### 3 学習の状況

#### 1 家で自分で計画を立てて勉強をしている[小 17/中 17]

(%)

	している	どちらかといえば、 している	あまりしていない	全くしていない	無回答
小学校	34.9(29.7)	36.5(36.4)	23.3(26.4)	5.2(7.5)	0.0(0.0)
中学校	12.7(14.7)	35.0(34.7)	39.3(36.2)	12.9(14.4)	0.1(0.0)

※( )内の数字は、平成30年度の結果

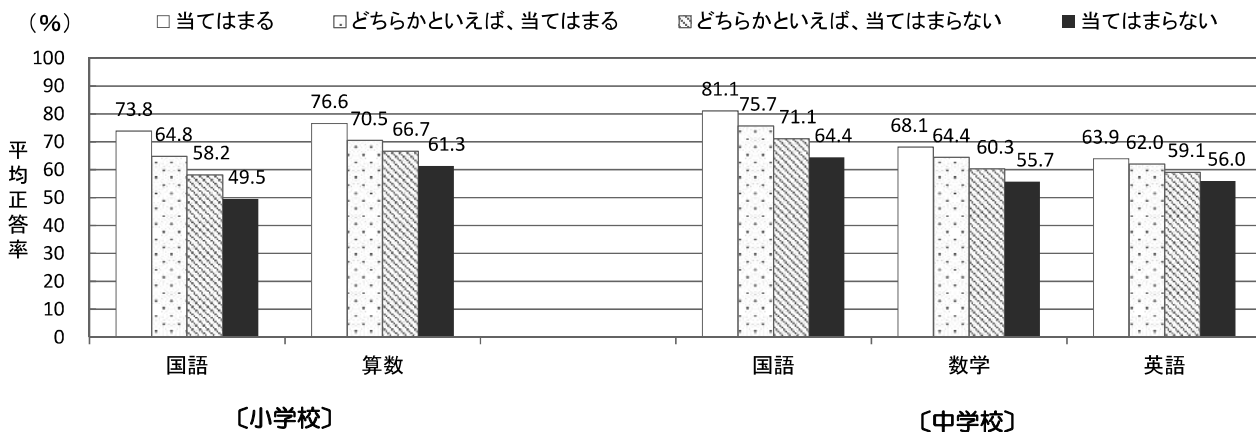


#### 2 読書は好きだ[小 21/中 21]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	44.5	29.4	17.5	8.5	0.0
中学校	38.7	27.6	20.1	13.4	0.1

※平成30年度は当該設問なし



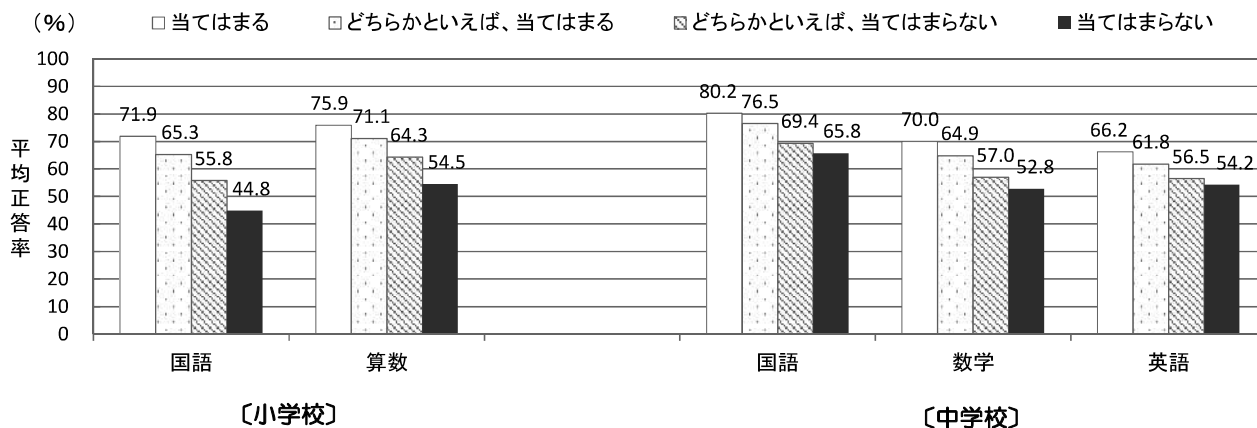
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の設問における肯定的な回答の割合は、昨年度に比べ、小学校では5.3ポイント増加している。中学校では昨年度よりも1.7ポイント減少し、5割に満たなかった。また、平均正答率とのクロス集計結果では、計画を立てて勉強をしている児童・生徒の平均正答率が最も高く、計画を全く立てずに勉強をしている児童・生徒の平均正答率が最も低いことが分かった。保護者・地域等と連携し、学校や家庭において、計画的に学習する習慣を身に付けさせていくことが大切である。
- 「読書は好きだ」の設問では、小学校国語および算数、中学校国語において、「当てはまる」と回答した児童・生徒と「当てはまらない」と回答した児童・生徒の平均正答率では15ポイント以上の差があり、大きな乖離が見られる。児童・生徒の読書好きの傾向と学力との間に相関関係が見られるため、児童・生徒に読書習慣を身に付けさせることが大切である。

### 3 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている[小 30/中 33]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	41.9	42.6	12.6	2.9	0.0
中学校	24.3	49.0	21.6	4.9	0.1

※平成30年度は当該設問なし

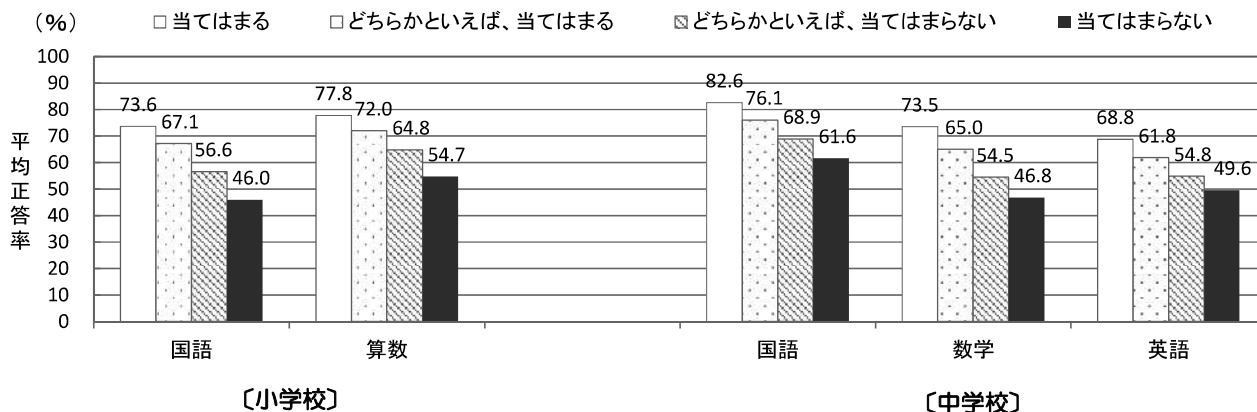


### 4 5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う[小 35/中 37]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	30.9(28.0)	46.3(47.5)	18.6(20.2)	3.8(4.3)	0.4(0.1)
中学校	24.2(22.9)	48.9(50.2)	21.3(20.7)	5.4(6.2)	0.2(0.1)

※( )内の数字は、平成30年度の結果



- 「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」の設問について、「当てはまる」と「当てはまらない」で平均正答率を比較すると、12ポイント以上の差があり、大きな乖離が見られる。また、各教科いづれも学力との間に相関関係が見られる。学校におけるカリキュラム・マネジメントを推進していくことで教科等横断的な学習の充実を図り、児童・生徒の資質・能力を育成していくことが大切である。
- 「5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」の設問について、「当てはまる」と回答した割合は、昨年度に比べ、小学校で2.9ポイント、中学校で1.3ポイント増加している。また、「当てはまる」と「当てはまらない」で平均正答率を比較すると、小学校では国語で27.6ポイント、算数で23.1ポイント、中学校では国語で21.0ポイント、数学で26.7ポイント、英語で19.2ポイントであった。また、各教科いづれも学力との間に相関関係が見られる。「主体的な学び」の視点での授業改善を図ることで、児童・生徒の意欲を高めるとともに、学力向上につながっていくと考えられる。

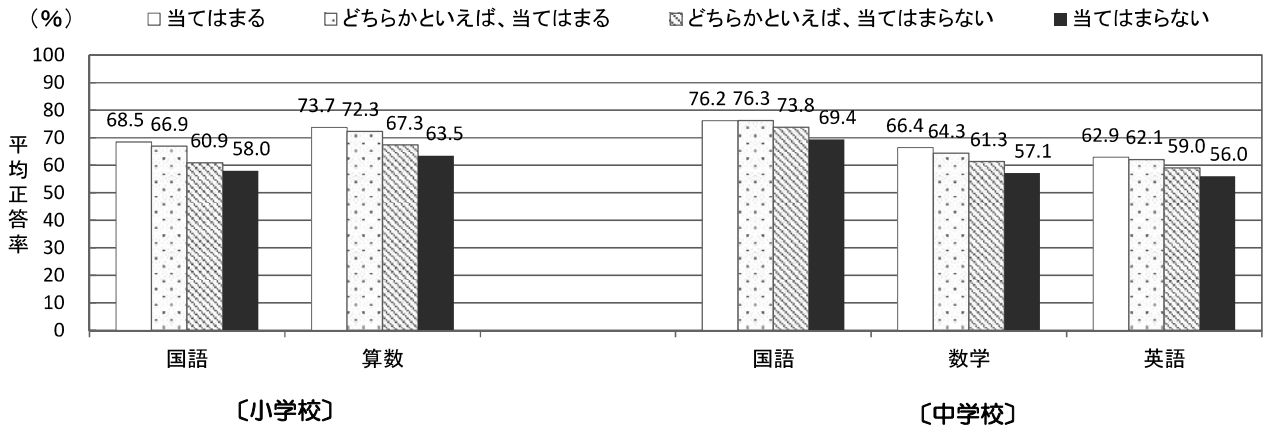
## 4 自分自身についての意識

### 1 自分には、よいところがあると思う【小 5/中 5】

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	39.4(40.4)	42.5(43.8)	13.5(11.7)	4.7(4.0)	0.0(0.1)
中学校	30.3(32.8)	44.5(44.3)	17.4(16.1)	7.7(6.7)	0.1(0.0)

※( )内の数字は、平成 30 年度の結果

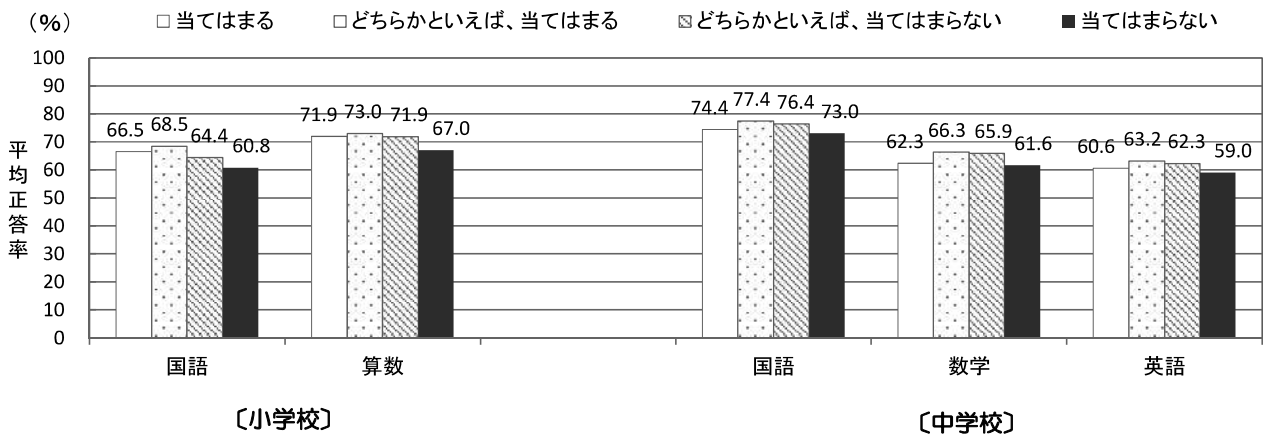


### 2 将来の夢や目標を持っている【小 8/中 8】

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	64.6(66.3)	18.8(18.3)	9.5( 9.3)	7.1( 6.1)	0.0(0.0)
中学校	42.0(43.7)	24.9(27.5)	18.9(17.8)	14.1(10.8)	0.1(0.1)

※( )内の数字は、平成 30 年度の結果



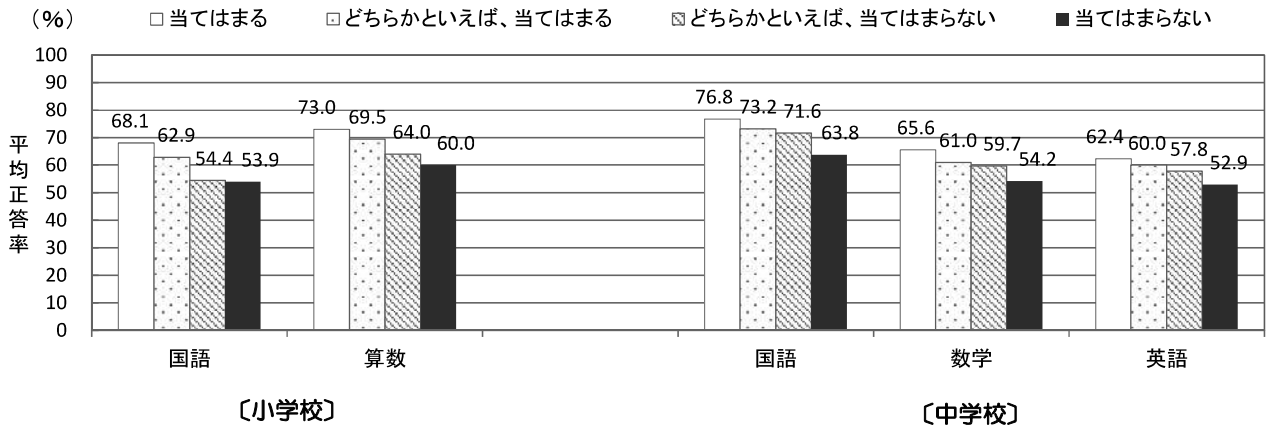
- 「自分には、よいところがあると思う」という設問に対し、小・中学校ともに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の平均正答率が高い傾向にあった。小・中学校ともにクロス集計の棒グラフは右下がりの形になっているが、小学校の方が自己肯定感と学力の相関関係がやや強く出ていると言える。
- 「将来の夢や目標を持っている」という設問に対し、肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、小学校では 83.4%、中学校では 66.9%であった。「当てはまる」と回答した割合を小・中学校で比較すると、中学校は小学校よりも 20 ポイント以上低い値であった。クロス集計の棒グラフを見ると、小・中学校ともに「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童・生徒の平均正答率が最も高く、緩やかな山を描く形になっており、学力との明確な相関関係は見られなかった。

### 3 人の役に立つ人間になりたいと思う[小 16/中 16]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	73.6(73.0)	21.7(22.2)	3.4(3.1)	1.3(1.5)	0.0(0.1)
中学校	66.8(66.7)	26.8(26.6)	4.0(4.5)	2.2(2.1)	0.3(0.2)

※( )内の数字は、平成30年度の結果

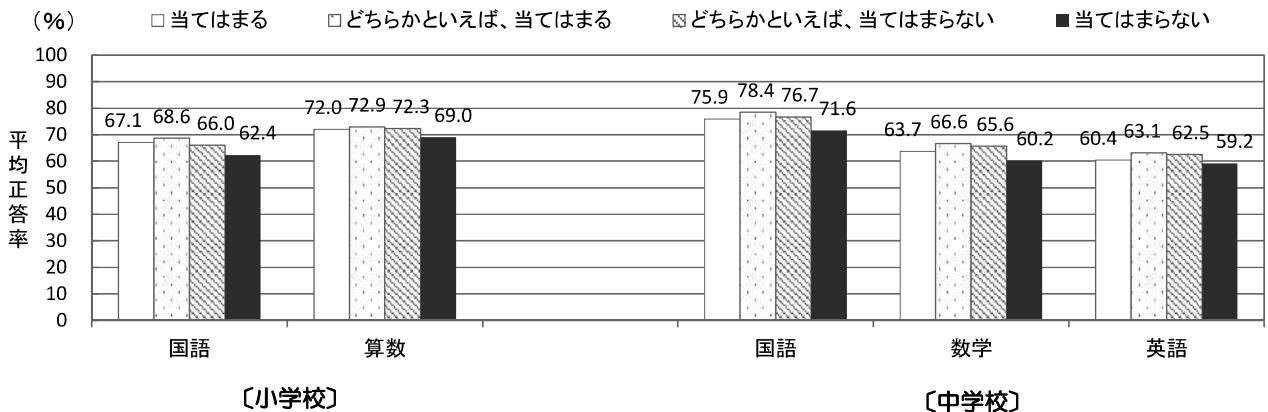


### 4 今住んでいる地域の行事に参加している[小 23/中 23]

(%)

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	無回答
小学校	18.5(16.6)	32.4(27.2)	28.6(30.0)	20.5(26.1)	0.0(0.1)
中学校	10.5(11.5)	26.3(23.8)	29.3(30.8)	33.7(33.7)	0.2(0.1)

※( )内の数字は、平成30年度の結果



- 「人の役に立つ人間になりたいと思う」という設問に対し、90%を超える児童・生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした。特に小学校で、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童ほど平均正答率が高い傾向が見られた。昨年度の結果と比較すると、肯定的な回答の割合は、小・中学校ともに昨年度と同程度であった。
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」という設問に対し、肯定的な回答をした児童は50.9%、生徒は36.8%であった。昨年度の結果と比較すると、肯定的な回答の割合は、小・中学校ともに昨年度を上回った。
- 児童・生徒が地域に関わりをもち、人の役に立つことや地域に貢献することのよさを実感できる体験活動を増やしていくことが今後の課題と考えられる。